

『 ガマ 』

観劇の参考に資料をご用意いたしました。

観劇前にお読みになっても

作品を楽しんでいただくのに問題はありません。

ただ、一部作品の内容と関わっている部分もございます。

全く前情報なしでご覧になりたいお客様にはお勧めできません。

ご了承ください。

◆ 参考文献 ◆

◆ 年表 ◆

◆ 語句説明 ◆

参考文献

『ガマ』の構想、執筆に際し、以下の書籍を資料として参考にしました。

執筆者及び著作権保持者に心より感謝の意を表します。

ガマ(洞窟)であったこと—沖縄戦の実相がここにある(わたしの沖縄戦) 行田稔彦

沖縄戦を生きぬいた人びと 吉川麻衣子

ガマに刻まれた沖縄戦(母と子でみる) 上羽修

NHKスペシャル沖縄戦全記録 NHKスペシャル取材班

友軍とガマ—沖縄戦の記憶(沖縄・問いを立てる) 屋嘉比収

ガマ 遺品たちが物語る沖縄戦 豊田正義

証言 沖縄スパイ戦史(集英社新書) 三上智恵

決定版 写真記録 沖縄戦 大田昌秀

沖縄のこころ:沖縄戦と私(岩波新書) 大田昌秀

ぼくが遺骨を掘る人「ガマフヤー」になったわけ。:サトウキビの島は戦場だった 具志堅隆松

沖縄戦—民衆の眼でとらえる「戦争」 大城将保

今なお、屍とともに生きる 日比野勝広

沖縄決戦—高級参謀の手記(中公文庫プレミアム) 八原博通

ひめゆりの塔をめぐる人々の手記(角川ソフィア文庫) 仲宗根政善

沖縄の旅・アブチラガマと轟の壕(集英社新書) 石原昌家

関連年表

1609年

南西諸島で繁栄していた琉球王国に、薩摩藩が攻め入る。琉球は薩摩藩に屈服。薩摩藩は琉球王国を存続させ、間接的に支配する。琉球王国は薩摩藩と中国とに両属しながら独自の文化を維持する。

1872年～1879年

琉球処分。明治維新によって誕生した日本政府は、日本と清の両属状態にあった琉球王国を日本に併合した。1872年の琉球藩設置に始まり、1879年には沖縄県が設置。これによって旧琉球王国領は明確に日本領となった。以降、日本政府により沖縄県の日本化が進むことになる。

1890年

天皇への崇敬心を育てることを目的に、沖縄県に宗教政策が実施され、神道が広く布教される。また学校教育の場で標準語励行が行われ、方言使用に対し罰則を設ける学校も登場する。

1898年

沖縄県でも徴兵制が実施される。

1900年頃～1930年頃

農業生産の未熟や農家の小作化等を原因として沖縄全体で「ソラツ地獄」と呼ばれる経済不況が起こる。特に1904年の沖縄明治大干ばつを契機に、慢性的な食料不足が続いた。沖縄県民は、本土、南洋諸島(日本の委任統治領)に出稼ぎに出る者や、南北アメリカへの移民となる者が続出する。貧しいのは本土の農村も同じだったが、沖縄は更に貧しかったため、外地に出た日本人では沖縄県民の比率が高かった。

1905年頃

日清戦争後、沖縄の同化政策、つまり日本化が促進される。沖縄独自のものは政府により徐々に否定される。同化を進めながらも差別は存在し、本土の貸家でも「沖縄・朝鮮お断り」の文言が当た

り前のように使われていた。

1937年

日中戦争勃発。戦争の時代に突入し、より沖縄の日本化が進められる。言葉、文化、生活、信仰等、あらゆる分野で沖縄文化の否定が行われる。

1941年12月8日

太平洋戦争勃発。

1944年2月

太平洋でのアメリカ軍の攻勢が強まり、日本陸軍が沖縄防衛の為に32軍を編成する。

4月

日本海軍も沖縄方面根拠地隊を置く。

7月

サイパン島が陥落。これを受けて日本軍が本格的に沖縄地上戦の準備を始める。

8月11日

32軍司令官として牛島中将が沖縄に着任。

8月22日

沖縄からの疎開船対馬丸がアメリカ潜水艦の魚雷で轟沈。乗員乗客合わせて1400人以上が死亡。犠牲者には学童疎開の為に沖縄を離れた児童が多数含まれていた。この事件は隠匿されたが、子供からの連絡の途絶えた親により、すぐに噂が広まり、沖縄県民の県外への疎開の妨げとなった。

10月10日

十・十空襲。アメリカ軍により沖縄全土が大空襲される。特に那覇市街はほとんどが炎上する大被害を受けた。軍だけでなく民間への被害も大きかった。

11月

32軍から最精鋭の第9師団の台湾への転出が決まる。32軍は地上戦の有力な戦力を喪失する。

11月末～12月上旬

32軍、配置転換による陣地の再構築。沖縄本島南部に主防御陣地を構築し、これに籠って戦う持久防御戦術に方針が決まる。

1945年3月

アメリカ軍、沖縄攻略を目標としたアイスバーグ作戦を発動させる。

3月23日

アメリカ軍機により、沖縄への事前攻撃が開始される。

3月26日

沖縄本島上陸準備として、アメリカ軍が慶良間諸島に上陸。

4月1日

アメリカ軍、沖縄本島への上陸を開始。これから一月近く、司令部のある首里を目指し前進するアメリカ軍と陣地に籠り善戦する日本軍の血みどろの戦闘が続く。

4月22日

沖縄北部での組織的な戦闘の終了。アメリカ軍上陸地点より北にはほとんど日本軍が配備されていなかった。

5月3日～4日

あくまで持久戦術を主張する参謀を黙らせ、32軍牛島司令官と長参謀長の命令で日本軍が反転攻勢に出る。一時、アメリカ軍は混乱したが、すぐに反撃。反転攻勢は失敗し、日本軍は大きな被害を受ける。

5月22日

反転攻勢失敗後もしぶとく首里戦線で持久防御を続けた32軍も、この日、首里から撤退し南部の喜屋武半島にて戦闘を続行することを決定する。

5月24日～数日

首里戦線の日本軍撤退。大部分が喜屋武半島へ。折からの豪雨が続き、アメリカ軍は効果的な迫撃ができず、組織的な戦闘が更に続く。

6月18日

アメリカ第10軍司令官バックナー中将、戦死。

6月23日

喜屋武半島摩文仁に追い詰められた32軍牛島司令官と長参謀長が自決。3週間もの時間を稼いだ南部撤退だったが、これにより軍と避難していた住民が混ざり、民間人の犠牲を激増させる結果になった。沖縄住民の戦没者の6割が6月以降の南部地域で戦死している。

7月2日

司令部消滅後も残存日本軍は存在したため、掃討作戦が行われ、一万人近い日本兵が犠牲になった。この日、アメリカ軍は沖縄作戦終了を宣告した。

9月7日

32軍司令部は最後に「最後まで敢闘せよ」と打電した為、その命令に従い降伏せずに戦い続ける日本軍部隊がしつこく存在していた。これにより、終戦まで軍・民に被害が続いてしまった。玉音放送から遅れること20日以上、この日ようやく日本軍代表が沖縄戦降伏文書に署名し、公式に沖縄戦が終結した。沖縄戦の犠牲者数は国の調査が行われておらず、正確な数字は不明だが、日本側だけで19万に近いという推計もある。

用語解説

※作者流の解釈です

地名

沖縄県 本州・九州・北海道・四国という日本列島の中核からはるか南西海上の諸島で構成される県。その地理的要因から中世以降、独自の歴史を持ち、琉球王国として独立していた。江戸時代以降も、薩摩藩に従属する形ながらも独立を守っていたが、明治政府の琉球処分により完全に日本に併合され、沖縄県としての歴史が始まる。太平洋戦争では最大の地上戦が行われた。その後、アメリカの統治領となり不沈空母として、極東における米軍の一大拠点となる。1972年に日本に返還されるも、現在でも多くの米軍基地が残り、この基地問題は沖縄の悲劇の象徴となっている。

首里 現在は沖縄県那覇市の一地域。歴史的には琉球王国の都であり、沖縄本島の中心であった。琉球王国の象徴であった首里城の地下に32軍の司令部が置かれ、沖縄戦時には巨大な地下壕網によって守られていた。当然、アメリカ軍の最大の攻撃目標になり、上陸地点から首里に至る各所で激戦が戦われた。

本部半島 沖縄本島北部にある半島。沖縄戦時、わずかに配置された日本軍はここを中心にアメリカ軍に抵抗したが、北部の組織的な戦闘は4月22日には終了した。

那覇 沖縄県の県庁所在地であり、中心都市。1944年の十・十空襲で大部分が炎上した。また首里の近さから地上戦時にもあらかたの建物が燃やし尽くされた。

名護 沖縄本島北部の中心都市。本部半島の根元の部分である。

喜屋武半島 喜屋武岬とも。沖縄本島の最南端地域の一つ。沖縄戦時、日本軍の組織的抵抗の最後の地。司令部のあった摩文仁もこの地域にある。現在でも多くの戦跡や慰霊碑が残されている。

軍事

沖縄戦 1945年4月1日のアメリカ上陸から始まった、太平洋戦争最大の地上戦。日本陸軍はこの沖縄を、本土の前縁と位置づけ、沖縄での決戦を本土決戦の前にアメリカ軍に出血・損耗を強いる戦いと規定した。これをもって沖縄での日本軍の作戦は「捨て石作戦」と呼ばれている。日本軍はペリリュー島の成功やサイパン島の失敗といった島嶼戦の戦訓を参考に、徹底した持久防御作戦を行った。これはアメリカ軍にかつてない被害を強いた半面、沖縄の民間人の被害も拡大する結果を生んだ。日本軍は善戦しつつも、徐々にアメリカ軍の物量に追い詰められ、6月23日に32軍司令部が自決し、組織的な戦闘は終了したものの、孤立した残存部隊による散発的な戦闘は8月15日まで続いた。

女子学徒隊 沖縄県の女子学生を看護要員として動員し、看護助手として働かせるために作られた部隊。15歳から19歳の女学生が

配属された。もっとも有名な部隊がひめゆり学徒隊(この呼び名は戦後のもの)であり、他にも白梅学徒隊などが存在した。あくまでも非戦闘要員であるが、激しい戦闘に巻き込まれ、中には半数が戦死した部隊もある。

鉄血勤皇隊 沖縄県の旧制中学生を動員して作られた部隊。14歳から16歳の少年兵部隊である。32軍の命令で1780人の旧制中学生が戦闘行為に動員され、約半数が戦死した。

防衛隊 沖縄県の民間の男性の17歳から45歳までを動員して作られた急造の部隊。正規軍の兵力不足を補うために使われた。沖縄戦開始ぎりぎりの時期には「根こそぎ動員」され、年齢制限も守られず、少年や老人まで動員された例もある。22000～25000人が動員され約13000人が戦死した。女子学徒隊や鉄血勤皇隊より、動員数も戦死者数も上回っている。

護郷隊 10代半ばの少年兵により構成された日本軍のゲリラ戦部隊。第一護郷隊、第二護郷隊の二隊が編成され、沖縄本島北部山岳地域に拠ってゲリラ戦を行い、約1000人の隊員のうち160人が戦死した。隊員は学校や役場を通じ、半ば強制的に動員された14歳から17歳までの少年たちだった。部隊の性質上、秘密部隊であった。

陸軍中野学校 諜報や防諜、宣伝など秘密戦に関する教育や訓練を目的とした日本陸軍の軍学校。護郷隊の幹部将校はこの中野学校の卒業生15名が任命され、1944年9月に沖縄入りをして、護郷隊を組織、訓練し、ゲリラ戦に備えていた。

その他

ガマ 沖縄本島南部には石灰岩で形成された鍾乳洞が数多く存在し、その数はおよそ2000に及ぶ。沖縄戦時、このガマは避難壕や病院壕として利用された。現在でも沖縄戦時の遺骨・遺品が出てくるガマも存在し、その発掘を続けるガマフヤーと呼ばれる人もいる。

沖縄のお墓 沖縄はお墓の文化も独自であり、亀甲墓という大きな墓も多数存在している、沖縄戦時、このお墓も避難壕としてよく利用されていた。

やんばる 沖縄本島北部の山岳密林地帯の通称。陰しい自然状況から、南部に比べると未開地が多い。沖縄戦時には疎開地に指定されていた。

島尻 沖縄本島最南部の通称。日本軍の最後の抵抗地であった為、この島尻地域に被害が集中している。

一高女 正式には沖縄県立第一女学校。沖縄師範学校女子部と併設された学校であり、この二校の通称が「ひめゆり」である。沖縄戦で65名が学徒隊に動員され、42名が戦死した(一高女だけの数字)。

県立一中 正式には沖縄県立第一中学校。沖縄戦では273名が動員され、153名が戦死している。